

平成29年度第1回

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

会議録【概要版】

日 時：平成29年6月26日（月）午後7時開会
場 所：札幌エルプラザ公共施設 2階 会議室3・4

1. 開 会

○寺田札幌エルプラザ公共4施設館長 こんにちは。

本当に夜遅くにありがとうございます。初年度もスタートしまして、はや2カ月が過ぎようとしております。今回は、昨年度の報告と今年度の新規事業計画をお話しさせていただきながら、事務ブースの取り扱いについても、皆さん方の意見を反映させていただいて、新しい形ができるかなと思っているところです。

きょうも、いろいろご意見をいただきながら、運営の参考にさせていただければと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

2. 議 事

○事務局（田村指導員） それでは、議事に入ります。

ここからは、運営協議会設置要項第6条に基づき、指定管理者であります札幌エルプラザ公共4施設館長の寺田が進行させていただきます。よろしく願いいたします。

○寺田座長 では、どうぞよろしく願いいたします。

お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

きょうは三つの議題がございます。①平成28年度事業実施及び施設運営状況について、②29年度の事業計画について、③事務ブースの使用団体選考についてです。最後に、情報交換の部分で現在のサポートセンターのあり方について職員で話し合っていますので、情報交換を最後にさせていただければと思います。

事前に、隼田委員から、ホームページのリニューアルの進捗状況についてのご質問がありましたので、事業計画の中で取り上げます。

そのほか、皆様から議題のご提案がございましたら、意見交換の時間帯でご発言いただければと思いますので、忌憚のないところをお願いいたします。

最初に、議事（1）平成28年度事業実施及び施設利用状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（古野係長） 平成28年度事業実施及び施設利用状況について、私からは、初めに平成28年度の自己評価、よかった点と課題について、そして、施設利用状況、相談事業の実施状況について、大きく3項目について報告いたします。

前回の運営協議会が2月2日だったので、平成28年度事業報告については、ほぼ皆様にお伝えしていることから、今回は重点目標に上げたところのみの報告といたします。

平成28年度重点目標としていた「活動レベルに即した学習機会の提供及び子ども・若者NPO法人へのスタート支援の機会拡充」においては、はじめて講座、NPO法人設立講座、NPOマネジメント講座において、それぞれの個人、団体の活動レベルに合わせた講座の設定、テーマの設定で実施することができました。幅広く網羅することができたと感じております。

また、「子ども、若者に向けた事業」については、新たに寄附の教室など、新規ワーク

ショップも取り入れ、リピーターだけではなくて、新しい参加者をふやすこともできました。

市民活動促進学生プロジェクトの大学生と子ども記者の小学生、中学生との共同事業の実施において、お互いに役割を担いながら一つのものをつくり上げる楽しさを体験することができました。子ども記者を学生が取材をし、ホームページに動画をアップするという作業を行っていましたが、そういった作業を通して、学生自身が市民活動に興味を持ち、理解を深めることができています。

今回、アイテムづくりを担当したメンバーが絵本を作りました。全てストーリーも絵も担当者が自分たちで考えて、絵本という形で子どもたちに市民活動を伝えることに挑戦しました。協力してくださった山藤山陽印刷のホームページに製作の様子がアップされていますので、ぜひ皆さん、ごらんください。

次に、課題です。

数値目標として講座の定員充足率80%という数字を掲げていましたが、最終的には70%程度でした。充足率が達成できなかった理由として、テーマを絞って実施したことで対象者が限定されてしまったと考えています。私たちのメインの広報ツールは、『広報さっぽろ』への掲載です。そのほかに、各区役所、区民センター、図書館等に配架しているチラシがあります。今後は、配布先や配布の方法を検討していく必要があると考えております。

続きまして、平成28年度施設利用状況についてです。

施設の利用については、利用件数はふえています。利用人数は若干減っているという数字になっております。分析するのに、平成25年3月の数字と平成29年3月の数字を比べてみました。

平成29年3月の利用状況は、それぞれ部屋の定員が異なるので、正確な分析ではありませんが平均して利用している人数は、1件当たり7.6人という数字が出ました。同じように平成25年3月の数字を計算すると、8.3人でした。わずかな差ですが、積み重なると大きな差になるなと思いました。ですので、一つ一つの団体さんの規模が小さくなっているというのが、こういうところにあらわれているのかなと感じております。

また、サポートセンターの施設利用だけではなく、相談や視察、施設外事業全て合わせた利用件数、利用人数はどちらも前年度よりも多くなっております。

12月の施設外事業の人数は9,800人以上カウントされております。こちらの数字は、3日間、地下歩行空間にて行った事業の参加者として計上しております。このようにエルプラザの外に出ることで、日常の利用者とは違う層にアプローチできる、そんなよさを実感した事業となりました。施設の外に出ることの大切さは、この数字をヒントに平成29年度の事業計画に反映させております。

続きまして、市民活動団体の登録件数についてです。

サポートセンターに登録している市民活動団体は、平成29年3月末時点で2,653

団体でした。28年度内に解散等で削除した団体は43団体です。これはいつもよりも多い件数となりました。その要因としては、「まちさぼ」を開設するに当たって、登録している全ての団体に通知を出したことをきっかけに、うちはもう既に解散しているとか、今、活動は休止中ですというご連絡をいただいて、それなら削除しますか、それとも継続しますかというふうに対応しております。整理できてよかったと思っているのですが、2,653団体の中でも、現在、期限切れの団体が多数ありますので、一旦登録団体としては整理する時期が来ていると思っております。

最後に、相談事業についてです。

昨年度から皆様に相談件数アップのためにご意見をいただきながら努力した結果、44件の増加が見られました。ただ、合計数が減っているのは、職員が受けた相談件数が100件以上減少しているところです。この差については、日々、利用者の皆さんとの会話の中で聞かれたことや答えたことなどを相談としてカウントするかどうか、職員の意思統一ができていなかったことも一つの要因かと思っております。今後、この相談内容、相談事業の分析などを行っていく上では、本当に必要な件数のみ残していきたいと思っているので、今後もカウントする数字は精査していきたいと考えております。

税務・会計相談については、36件から16件に減っております。税理士さんと傾向について話をした際、NPO法人も一般企業の皆さんも余り区別がない時代になっているのではないか、NPO法人のための税務・会計相談といっても、特別感が薄いかもしれないというご意見をいただきました。その点については瀧谷委員からもアドバイスをいただきたいと思っております。

また、法律相談について、平成28年度新設の窓口だったことから、5件の相談件数にとどまりました。しかしながら、相談者の方からは、弁護士さんと話ができる機会であること、また、私たち職員にとっても、弁護士さんとのつながりがあることの安心感がとても強く、必要な事業と考えております。

昨年度の運営協議会でいただいたアイデアを形にした内容をまとめてみました。

相談窓口ご案内リーフレットは、相談員が窓口に座って待っているだけではなくて、利用者さんに声かけするきっかけづくりのアイテムにもこのリーフレットはとても役立っております。

今回、相談員さんが受けている相談件数が増加した一つの理由として、我々は、相談人数をカウントしているのではなくて、相談件数をカウントしています。1人の相談者さんが、例えば、助成金について、イベントについて、仲間集めについて、まとめて三つの質問をされたときは3件と数えています。そうやって複数の案件について相談したときは、その内容を一つずつカウントしていますので、相談員も相談内容を分析しながら、適切な回答やアドバイスを行っています。

最後に、相談時間の変更についてですが、平成29年度の事業計画にも重なりますが、より相談者が相談しやすくなるような相談の時間帯を新設いたしました。税務・会計相談

については土曜日の午前中というのが新しく、法律相談は月曜日の夜間、また、市民活動相談については、契約上、時間帯の変更はできなかったのですが、アドバイザーとして協力していただいている、はじめて講座を夜の時間帯に行っていたりしております。はじめて講座の中で解決できているケースもありますので、今年度もさまざまな事業と抱き合わせで、課題解決につながる事業を行っていきたくと考えております。

平成28年度の事業については、以上でございます。

○寺田座長 それでは、説明内容で何かご質問はないですか。

(「なし」と発言する者あり)

○寺田座長 まだ議題があるので、先に進めます。

次に、二つ目の議事で、平成29年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

○事務局(古野係長) では、引き続き平成29年度の事業計画について報告いたします。

この件につきましても、前回、2月の運営協議会で大枠を報告しておりますので、

ここでは、前回お伝えした新規事業、レベルアップ事業について、現在の進捗状況をお伝えするとともに、現在の実施状況、今後の予定について、幾つかの事業をピックアップして担当者から報告いたします。

今年度の重点目標は、「スタートアップ支援と子ども、若者へアプローチするための新たな取り組み」ということで新規事業を2本計画しております。「市民活動マッチング事業」と「市民活動出前講座」です。マッチング事業については、現在進行中ですので、後ほど担当者から報告いたします。

出前講座については、私たちスタッフが児童会館に出向いて、先ほど報告した学生プロジェクトのメンバーが作成したホームページや絵本などを使って、市民活動に触れ考えるワークショップを予定しています。子どもたちの夏休み、冬休みの時期を利用して、年2回の予定をしております。

続きまして、情報発信に関する分野のレベルアップ事業ですが、ホームページ、メールマガジン、情報誌のリニューアルを上げておりました。

「みんなのしみサポ」のリニューアル版は完成間近で、かなりイメージも変えて、ページ数をふやした分、文字サイズが上げ、余白が多くなって読みやすくなりました。編集ボランティアも新しいメンバーを迎えて、既に紙面への企画会議や取材にも参加しております。宮本委員には企画会議のファシリテーターとしてご協力いただきましたので、編集ボランティアの皆さんに期待することなど、アドバイスをいただければと思っております。

隼田委員からは、ホームページのリニューアルが心配だというご意見をいただいております。前回はワークショップ形式でサイトの内容を検討してはどうかとアドバイスをいただいております。「まちさぼ」ができたことで、うちのホームページと「まちさぼ」との役割分担も明確にしながら、ホームページのリニューアルの必要性については日々痛感しております。恐らく、経費の面も含めて今までなかなか手をつけてこられなかったと思

っている部分ですので、今年度、覚悟を決めて取りかかりたいと思っております。

ただ、スケジュール感などは、私たちは素人なものですから、隼田先生のアドバイスなどをいただきながら進めていきたいと思っております。

続いて、研修・学習に関する分野のレベルアップについてです。

「はじめて講座」、「NPOインターンシップ」、「マチ×なかNPO」について、指導員の田村より報告いたします。

○事務局（田村指導員） 「NPOはじめて講座」についてお話しします。

NPOや市民活動についての基礎的なことを学び、サポートセンターの役割や利用内容などを知っていただく講座です。昨年同様、年4回の実施を予定しており、1回目は5月9日の火曜日に終了いたしました。定員20人のところ、22人のお申し込みをいただいて、4人キャンセルが出ましたので、参加者は18人となりましたが、定員充足率としては前年度とほぼ同等で安定しています。

この講座は、年間を通して、「次はいつあるのか」といったようなお問い合わせをいただいております。サポートセンターの全ての事業につながる入り口的な役割を担っていることもありますので、できるだけ多くの方に参加いただけるように時間や曜日を工夫しております。前は夜の時間だったのですが、今回は8月19日の土曜日で、昼間の早い時間、午後2時からを予定しております。

さらに、今年度は対象世代別や外に出向いてく出前講座などを取り入れることでレベルアップを図っており、6月23日には、年間4回の講座とは別に、江別市の酪農学園大学の主に2年生を対象とした授業の「ボランティア活動・NPO・NGO論」という中の一コマをお借りして、学生向けにアレンジしたアウトリーチを行ってきました。

また、10月20日の金曜日に予定している3回目では、平日午前中の時間帯で、募集対象を高齢者に絞って実施することなどを検討しています。

続きまして、「NPOインターンシップ」の事業について説明します。

おおむね30歳までの若者を対象に行っている事業で、社会に出る前にNPOの活動や運営を体験し、団体の中でいろいろな世代の方と交流してもらうことでNPOを身近に感じていただき、社会課題と自分のかかわりとか生き方、働き方などを考える機会としていただくことを目的に実施しています。

ことしで継続4年目になりまして、草野委員にはスタート時よりコーディネーターとしてかかわっていただいております。ことしのインターンシップ先は、受け入れ団体数が昨年度同様の5団体で、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会、地域コーディネーターかどま〜る、一般社団法人北海道ブックシェアリング、NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道、そして、スローフードさっぽろの5団体にご協力いただけることになりました。

また、前年度までは、インターンシップ前のオリエンテーションとして、参加者がどこでインターンシップをするかということを決めるために各団体の事務所を訪問してお話を伺っていたのですが、これが意外とおもしろいということになりまして、ことしは、

この部分だけを切り取って「事務所訪問ツアー」を先に実施し、その上でインターンシップへお誘いするという流れを組みました。

また、昨年度作成した報告ペーパーを見ていただいでご説明すると事業のイメージが伝わりやすいということで、チラシと一緒に大学や高校、ハローワークなどにお配りするようになっています。

先ほどお話しした酪農学園大学でもこちらを配布したところ、その場で3名の学生が申し込みをしてくれました。ことしもまた活動終了後にはこういったものを作成したいと考えております。

続きまして、「マチ×なかNPO」です。

こちらは、実施日が12月18日（月）14時から19時、19日（火）と20日（水）11時から16時の時間帯で予定しております。

前回の委員会で、もっと早い時期にしてはどうかというお声もあったのですが、なかなか日程がとれなくて、12月の日程しか確保できなかったという結果になりました。

こちらは、札幌駅前地下歩行空間北3条交差点広場（西）という不特定多数の方が行き交うまち中の広場で、多くのNPO団体が集って、3日間通して出展販売やワークショップ、ステージ発表などを行い、広く市民に向けて日ごろの成果発表や活動のPRを行うというイベントです。

北3条広場の会場で行うのは、ことしで3年目になりますけれども、こうしたまち中の広い広場の会場を確保することが難しい団体さんにも出展いただける機会として、また、市民の皆さんに札幌で活動するさまざまなNPOを広く知っていただく機会としても大きな役割を持った事業だと思います。

これまでは11時から16時の時間帯で行っていたのですが、昨年度の振り返りで、「もっと遅い時間までやってほしい」という出展団体からのご意見が多数あったことを踏まえ、ことしは1日だけ、19時までという少し夜に食い込む時間帯で実施してみることになりました。

また、この事業は、参加するNPOによる実行委員会形式で企画運営など行っておりまして、昨年は、実行委員10団体のうち5団体はセンターからお声かけしていたのですが、ことしは初めから全て公募にし、当日の運営を手伝っていただくボランティアは、当日だけではなくて、事前準備からかかわっていただけるような仕組みづくりを行っていきたいと考えております。

○事務局（西指導員）

サロン事業の目的は、市民活動に携わっている方、関心を持っている方同士の交流と情報交換の機会を提供することです。

6月3日に第1回目、「しみサポつながるカフェ～NPO活動座談会」を実施いたしました。参加者同士での交流をメインにしたところ、「ほかの団体とのつながりを持ってよかった」、「さまざまな活動を知ることができ大変勉強になった」、「ぜひまた開催して

ほしい」というお声をいただきました。

第2回目は、「しみサポつながるカフェ～知って安心法律のコト～」と題して、NPO活動を行っていく上で法律的なトラブルに遭わないよう気をつけたい事項などについて、弁護士からのお話をいただきながら理解を深めます。

また、参加者同士で意見を交換する機会を設け、交流するという面を大切にしていきたいと考えております。このように、サロン事業はつながるといふ面に力を入れているため、今後もそれを意識して取り組んでまいりたいと思います。

続きまして、「子どもボランティア体験隊」についてご説明いたします。

こちらの目的といたしましては、市民活動団体を受け入れ先としたボランティア体験プログラムを提供して、将来を担う子どもたちが社会参加意識を持って社会的課題の気づきを得るといふものです。この事業は、リピーターが多い事業なので、回数を重ねるごとに参加している子どもたちがレベルアップしていけるように働きかけをしていきたいと考えております。

今年度は、7月22日から8月8日までの期間で、参加する子どもたちは二つの団体を選んでボランティア活動を行います。コミュニティカフェの清掃や料理の盛りつけ体験、車椅子の整備・乗車体験、動物を紹介するガイドの制作などがございます。

活動終了後にはまとめの会を実施し、体験したことを振り返り、全員で共有する場を設けております。

現在、受け入れ先となつていただく5団体と活動内容の詳細について打ち合わせております。各団体の特色を生かした活動体験となるよう、取り組んでいきます。

続きまして、「市民活動学生プロジェクト」についてです。

この事業は、若者が市民活動に関心を持ち参加意識を高めることを目的としております。

活動内容としては、市民活動に関するツールを作成し、それを札幌市の児童会館に持っていき交流する活動、市民活動出前講座を予定しております。他、活動全般の記録やホームページ編集など、さまざまな活動を予定しております。

これらの活動を通じて、市民活動について理解を深めることはもちろん、大学生の皆さんがみずから発信し、伝える力を養うことも狙いとしております。

先日、オリエンテーションに参加した大学生からは、「人とかかわりが多くて楽しそう」、「楽しんでもらえるツールをつくりたい」、「メンバー同士で協力して活動を盛り上げたい」という声をいただきました。その思いを実現できるように今後の活動を計画していきたいと思つています。

7月、8月には子どもボランティア体験隊事業の引率や記録、9月には、9月9日に開催されるエルプラまつりにて、子どもボランティア体験隊の活動パネル展示、10月にはさっぽろ子ども記者という事業の中の記録など、さまざまな活動を12月まで予定しております。大学生の自主性を生かしながら、実りある事業にしていければと思つています。

○事務局（松谷指導員）

初めに、「NPOマネジメント講座」についてです。

「NPOマネジメント講座」は、市民活動団体の組織基盤強化や実務能力向上を目的に、NPOの組織運営に必要な知識や技術を提供する講座となっています。年間、全10回を予定しております。

昨年度から引き続きの講座ですが、昨年度とは異なり、今年度は講座を二つに分けて、基礎的なことを学びたい人向けの基礎編と発展的な内容を学びたい人向けのスキルアップ編と設定したほか、より基礎編に参加者が集まりやすいよう、基礎編を2回1テーマの講座から、1回1テーマ単発の講座にいたしました。

第1回目の基礎編は、「想いをつなげる仲間づくり」というテーマで、実施しました。内容については、講師の小林春美さんが実践してきた白石まちづくりハウスのお話の後、参加者それぞれの市民活動の状況や、行ってみたい市民活動について討議をし、その後、講義を聞いて気づいた点や共感したことについてグループワークを行い、仲間づくりの方法など意見を交換するという内容でした。参加者は、自分でこれから市民活動団体を立ち上げようとしている人、市民活動を行っていないが興味がある人など、さまざまでしたが、アンケートの結果、出席者の満足度は100%でした。

基礎編の第2回目は、「伝える伝わる企画術」をテーマに、イベントの計画方法、運営方法などを学ぶ予定です。7月13日に実施予定で、現在、11名の申し込みがあります。

また、スキルアップ編については、9月から12月に4テーマで全8回実施する予定です。テーマは、「広報」「組織」「マネジメント」「会計」「資金集め」の4テーマを予定しております。

続きまして、「つながる つなげる マッチング事業」です。

今年度から始まった「マッチング事業」は、児童会館などとの連携を通して、児童会館等と市民活動団体のプログラムをつなげるお手伝いをするという事業です。

市民活動団体にとっては、活動の裾野が広がり、次世代の担い手となる子どもたちに活動を知ってもらい機会となり、児童会館にとっては、専門的な内容を利用者に提供できる機会となります。現在、児童会館と連携したい市民活動団体のプログラムの募集が終了し、募集の結果、アート作品をつくるプログラムから、児童会館の子どもたちとする英会話の体験など、10団体、17プログラムが集まっております。

このプログラムを7月上旬のめどに各児童会館に配布し、プログラムを実施したい児童会館を募集します。

○寺田座長 それでは、今、職員から説明させていただいた初年度の事業について、もう少し聞きたいとか、これはどういうことなのだろうということがございましたら。

○高橋委員 つながるカフェのところで、その後の状況は確認されていますか。参加されて話をされて、その後、共同でこういった事業をスタートしたよ、といった話を確認されているのかどうか。そのほうが、このつながるカフェでこういった効果があるのかというのを、より伝えることができるのかなと思ひまして質問です。

○事務局（西指導員） 1回目が終わった後に、名刺交換会なども設定し、参加者の方々、私も含めお話しする機会を提供しています。その後の状況については把握できていませんが、今後、実際にどのようなつながりを築けたかなどは、伺っていきたいと思います。

○事務局（古野係長） 少し状況を補足します。

今回サロン事業でつながった、出会った人たちが、次の講座にも参加してくれるパターンがすごく多かったのです。次の講座で再会して「元気だった？」みたいな、そういった顔見知りになっていくところから、団体同士で何かをコラボしていくというふうにつながっていけばいいと感じております。今度は、活動場所にみんなで行って、「また続きの話をしようね」という話をしていたので、そうしたちょっとずつのつながりが、最終的には団体同士のつながりになればいいなと思って活動しております。

○寺田座長 ほかのことも構わないですし、今のことも構わないのですが、何かございませんか。

○宮本委員 感想みたいな感じになってしまうのですが、説明の中にあつた市民活動情報誌のリニューアルに当たって、編集ボランティアさんの企画会議の1回目の進行を手伝ってほしいという依頼をいただいて、一緒にやらせてもらいました。私自身も、ただ当日進行するというだけではつまらないと思って、事前に私が使っている進行表をもとに、田村さんと西さんと一緒に組み立てをどうやって考えたらいいかという事前の相談を一緒に行い、当日も役割分担をしました。私は進行をしたのですけれども、ぜひ西さんには書いてほしいと突然お願いして、グラフィックをそのときに西さんをお願いしました。実際にやってみて、終わった後、進行そのものや、グラフィックそのものや、参加者の様子というものの事後の振り返りを一緒にしたということで、実は、私が自分の団体のメンバーと一緒にやっている作業そのものを一緒にさせてもらったのです。

そもそも私が「きたのわ」という団体でファシリテーションをやっているのは、NPOや中間支援の人たちにファシリテーションの力やスキルをもっと身につけてもらいたいなという思いがあつてやっているというのがあつたので、今回、あえて一緒に組み立てをしてやってみるということをやらせてもらって、私自身はものすごく勝手に楽しんでおりました、こういった形をできたらいいなと思いやらせてもらいました。

そのときだけの進行よりも、事前と事後の組み立てと振り返りを今回私がファシリテーションでやってみたのですが、ほかの機会でもそういう形でできるのではないかと思います。

○寺田座長 ありがとうございます。

うちの職員も少しずつファシリテーションのスキルを上げられるかなというところで。

○寺田座長 それでは、ほかの事業に対してでも何かございましたら。

隼田先生はホームページのことなど、いかがですか。

○隼田委員 フェイスブックのページで、イベントを広報することができまして、先ほど、しみサポのイベントでしみサポのページを確認したら、昨年のエルプラまつりは、イベン

トの広報がフェイスブックでされているのです。でも、エルプラまつり以外は、どうもしていないようなので、やはりそれはもったいないと思います。たとえば講座などでも、これは参加したいと言った場合に、参加予定だとか、参加に興味があるとか、参加しない、の三択で選べたりします。それでそのまま申し込みになるかどうかは、各イベントをされている方たちによってやり方は違うと思うのですけれども、また新たな層とかを開拓することもできるかもしれないなと思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

やはり、ホームページにしても、広報にしても、うちの職員のスキルアップがもう少し必要だと思っているのですけれども、何かほかの点でも皆さん方で気がついたことがありましたら、ご意見をいただければありがたいと思います。

○奥山委員 フェイスブックのイベントはかなり便利で、それだけ上げて人も集まらないのですけれども、そこから派生させることが大切です。具体的な例で言うと、私はアートチャプターというのを立ち上げまして、東京で今度勉強会やるのです。そのイベントページを立ち上げて、そこに参加の申し込みしてください、もしくは、興味ありを押してくれた人に向けて、例えば、それぞれ関係者が自分の投稿をして、それをシェアしていきます。こんなのやりますよとか、あとは、このイベントの追加情報として、この講師はこんな講師だよ、みたいなものを幾つか上げたりすることによって、人が集まっていくということが、うまく使える。

この間、「北海道で強く温かい組織を増やす実行委員会」でセミナーをやりましたときに、結局申し込み者は100名ぐらいでした。ほぼフェイスブックのイベントページで周知。あとは実行委員でシェアしたり、直接メッセージを送って、こんなのに来ないと言ったり、フェイスブックは紙を渡すよりも、もっと気軽に使えるようなツールだったりするので、ぜひご活用されると、利用者数とか参加者数がちょっと伸びたりするのかなというのは思いました。最近、ツイッターとかも気軽にぼんぼんと出すのも増えています。ただ、ツイッターは情報が流れてしまうので、見逃す人も多いのでフェイスブックのほうがいいかなと個人的には思っているのですけれども、入り口として、そういうのもありかなという気もしています。

○寺田座長 ありがとうございます。

あとはいかがですか。

○隼田委員 今、ツイッターというお話がありましたけれども、フェイスブックとツイッターを連動するという機能があります。それをやると、フェイスブック上に投稿された記事がツイッターで流されるので、より広く広がる可能性があるかと思います。今お話があったように、シェアをしていくという口コミ効果というのは結構大きいような気がしていて、それと、フェイスブックのページを見ていると、仲のいい知り合いとかが、どこかに興味ありとかやると、誰れさんがこれに参加する予定ですかとかというのが出てくるのです。そういうのでまた知られたり、情報のプッシュを自動的にやってくれるところがある

ので、ぜひご活用いただければと思います。

○寺田座長 ありがとうございます。

○中田委員 施設利用については全体的に前年度より上がっているのので、施設が有動に利用されているのだと思いました。特に男女共同参画センターの相談件数が多いことを改めて感じました。これほど相談の件数や人数が多いのか興味があります。施設利用の人数はサポートセンターも7万人ぐらいですので大いに善戦しているのではないかと感じました。

2点目に、先ほど、しみサポの新しいバージョンを見せてもらったのですが、結構色もきれいですし、フォントも大小適度にちりばめてやられていましたので比較的に見やすいし、情報量も多くなっているように感じました。いろいろなNPOさんの紹介とか、宮本さんも1ページ特集号で紹介されていたので、あれをもっと広げていけば、いろいろまたつながりができてくるのかなという感じで見せてもらいました。

活動報告とか活動計画については、全体的には、特に先ほどの今年度の活動の報告の中では、担当の方が二つか三つ事業を持って一生懸命やっているということが理解できたので、その点は評価できると感じました。

○寺田座長 どうもありがとうございます。

事業を二つ、三つということで頑張っているという励みの言葉もいただきました。

瀧谷さんはどうでしょうか。

○瀧谷委員 サロンのことでお聞きしたいのですが、テーマを5回ぐらい設けてやるのかやったのかということだったと思うのですが、多分、いろいろな方が来られることを希望されることもある反面、対象が定まらないということもあると思っています。

例えば、今回は国際協力をテーマにとか、NGO関係の方に特に来てくれみたいなこととか、特に動物愛護系に来てほしいとか、文化系にしてほしいとか、そういう横のつながりを求めている方々も、同業はどうやっているのかとか、そういう中でまた交流を深めていくとか、例えばここだったら環境プラザさんがあったり、札幌市の外郭団体だったら国際プラザとかいろいろあるから、そういうところとうまく協働しながら、広報も協働してやると、ターゲットを絞れて、関心のある方が来てくれて、それを囲んで、さらに関心のある方が集まってくればいいのかと思いました。

今後、札幌で国際的な環境系のイベントがあるとか、動物愛護系のイベントがあるとか、そのときに集中して企画をぶつけてやるとかして、市民の方が特に関心を持ってくれたときに参加もできるような企画もあわせてやると、特に気持ちがある方がより行動にも移してくれるのかなと思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

草野さん、お願いします。

○草野委員 指定管理の事業の枠の中であっても、少しずつバージョンアップをさせていることがあると思うのです。例えば、私がかかわっているNPOインターンシップのところでは、去年はこうだったのでこのように変えましたというお話がありましたけれ

ども、全部の事業に、過去の実績でここが課題だったので、ことし、これをこういうふうに変えましたということが、お話を聞いているとあるのですけれども、恐らく課題が書かれていないのです。資料のパワーポイントのところはそうですけれども、去年こうだったので、ここをことし変更させてみましたという記載があると、委員としてもコメントがしやすいのです。ここをもう少しこうすると改善しやすくなるかもしれませんというコメントがしやすくなると思います。恐らく、何らかの反省があって、ことし、こういうふうに書いていることがいっぱいあると思うのです。そこの前段階のことが一行でも入っているとうれしいなと思いましたので、リクエストです。

○寺田座長 佐藤課長、いかがですか。

○佐藤委員 私からの感想ですけれども、年齢層の高い方が市民活動に、時間もできたことだし、かかわりたいと希望する方が、ここの施設に来られるということもありますし、また、若い方がどんどん、世代が上がるごとに、どの世代も継続して市民活動を続けてもらいたいという思いもありますので、29年度の事業計画を見せていただいている限りは、全ての世代に対してのアプローチができていますので、ぜひとも全て成功させて事業結果報告を聞かせていただきたいなと思いながら計画を聞かせていただきましたので、頑張ってください。

○寺田座長 ありがとうございます。

○草野委員 リクエストですけれども、どちらかというとソフトプログラムの話がかなり重点的に出ていると思うのですが、今後、指定管理が変わってくるのもあると思うのですが、ハードの例えば印刷機とか、あの辺は市民活動のニーズも変わってきていると思うので、必要な設備は変化してきているのではないかと思うのです。

例えば、実際に事務作業で必要なのは、高性能なスキャナーは結構欲しいのです。書類をデータベースにして保管しておくときに、それを各団体さんで所有するとなると、結構なコストがかかるので余り持てなかったりしていると思うのです。恐らく、今までの印刷、パソコンなどの環境が少し変わってきているところがあれば、今後の提案につながるころがあるのではないかと思います。利用者側さんのハードのニーズを拾っていただけるといいのではないかと思います。

○寺田座長 今、新たな視点でハードの充実ということが挙げられていますが、今、センターで考えていることはありますか。

○事務局（山田市民活動担当課長） 今のところは、具体的なことは出ていないですけれども、指定管理の切りかわりのときにハード面の契約も新しくなることもありますので、ユーザーの方とのコミュニケーションの中でどうしていくか、今後検討させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

○中田委員 今のスキャナーの関係で、一言、意見を言います。

僕らの案内分野は土木とか建築ですが、昔から図面、CAD、イラストを使うことが多く、社内でも何台かフロアごとにスキャナー、コピー、ファクスできるような機種があり

ます。スキャナーの画素数も200とか500dpiとか、いろいろな段階でスキャンできます。また、スキャナーはそれぞれの職員のパソコンと連動していて、宛先で自分のパソコンを選んで読み取るのですけれども、多分、サポートセンターさんでも事務部門はそういう仕組みになっているのではないかと思います。もしそれが余り普及していないと、先ほどの草野さんの意見も余り意味がないと思います。

ちなみに弊社のスキャナーは、富士通さんのドキュワークスというソフトとアドビさんのPDFなどのソフトを使用し、何種類か読み取れるような仕組みになっています。そのソフトもその都度自由に選べるような仕組みになっています。また、社内の各フロアなど、社内のどこからでもネットワークにアクセスできる仕組みになっています。ただ、今回のような不特定多数の利用になりますと、会費制でスキャンを設けるようになります。そうしますと、実践することがかなり難しいと思います。分担の問題とかメンテナンスの問題とかがありますので、一言でそろえると言っても、リースにするか買い取りにするか、いろいろメンテナンスをどうするか、いろいろな問題が絡んできますので、一筋縄ではいかないのかという気がします。

○事務局（古野係長） 補足いたします。

今まで毎年アンケート調査を利用者の方にしていまして、平成28年度は子ども、若者とつながる可能性があるかどうかという調査をしたのですけれども、今年度は利用者の方にヒアリング調査を予定していますので、サポートセンターに望むこと、草野さんがおっしゃったようなハード面のこととか、我々スタッフに期待することとか、新たにどんな設備があったらいいのかみたいなものも項目に入れたいと思います。

この間、沖縄のなは市民活動支援センターを見学させていただいたのですけれども、そこでリソグラフのカラーがあったのです。そういうのもあったらいいなと見てまいりましたので、そういったことも札幌市さんと調整したいと思っております。

○寺田座長 あとはいかがでしょうか。

○高橋委員 話が大きく変わるのですけれども、子ども・若者マッチング事業で、これから児童会館に公募をかけていくとおっしゃっていたと思います。

これに関して2点の質問があります。

1点目は、もし誰もどこの児童会館も手を挙げなかったらどうするのかということです。もう一点は、子どもは結構敏感で、嫌なことが一回でもあると来なくなってしまったりするのです。これからNPOと組んでやっていく上で、そのNPOがどんな団体なのかとか、どういった内容で進めていくのか、そして、どういった人たちが来るのかというのはすごく大事になってくるのかなと。

その団体によっては、もしかしたら、子どもが嫌な思いをしてしまって、その子が来なくなってしまうというのがリスクとしてあるのかなと思うので、その団体を、今まで集まった団体全てが実施されるのか、それとも、これから何かの基準を設けて選定していくのかというのをお聞きしたかったのです。

○事務局（松谷指導員） 1点目のどこも児童会館が手を挙げないときどうするということなのですけれども、マッチング事業の説明の際に、児童会館がどこも手を挙げなくても了承していただいています。どこも手を挙げなかった場合は、そのプログラムは実施されないという方向になります。

2点目のNPOがどういう団体かを知らないと、子どもに嫌な思いをさせてしまうと児童会館に来なくなるのではないかなという質問だったのですけれども、NPOがどういう団体かとか、どういう活動をやっているかというのは、きちんと聞き取った上でマッチング事業に参加していただくためコミュニケーションを図るなど、この団体は児童会館に入っても大丈夫かなという、そういった信頼関係というか、サポートセンターの職員と団体がつながっていないと児童会館にも紹介できないと思うので、そういったところもしっかりやっていきたいです。

○高橋委員 そうしたら、応募されている団体は、ふだんからコミュニケーションをとられている団体ということですか。

○事務局（松谷指導員） ふだんからコミュニケーションを図って、どういった思いで活動を行いたいとか、そういったものもふだんから聞いているので、自信を持って送れるNPOの方々なので、大丈夫かと思えます。

○高橋委員 また、子どもとのかかわりということで気をつける点や、事前に児童会館の方からの研修があったりとかというのはあたりするのですか。

○事務局（古野係長） 特にそういった研修とかは予定はしていませんが、我々スタッフとか児童会館の職員が、この時間は市民活動の皆さんが来てくれるのでよろしくというふうに全部お任せするつもりはないので、子どもたちの対応とかは児童会館職員や我々サポートセンターのスタッフも同行して見守りたいと思っていますので、そこで何かトラブルが起こるようなことがあれば、その場で対応していきたいと思っています。

○高橋委員 ありがとうございます。

○事務局（古野係長） 今回、こういった機会を団体の皆さんにも提供するというのが一つのプログラムなので、子どもの相手は初めてなのですよという団体があったとしても、それは一つのチャレンジする場で、今後、子どもたちとかかわっていく可能性があるかどうかというのは団体さん自身にも探ってもらえるような事業になればいいなというふうに思っています。団体さんがうまくいくように我々がサポートしていきたいと考えております。

○寺田座長 よろしいですか。

○草野委員 うちの団体も児童会館さんと少し事業を一緒にさせていただいて、初めてかかわりを持ち始めたのです。ここが活動協会の強みだと思うのです。皆さんは児童会館を経験されている方も担当の中にいらっしゃると思うのですが、NPOはその辺よくわからずに、多分、古い児童会館のイメージで行くことになると思うのですが、事前に、今こういう状態ですとやっていただいても、NPOはいい意味で突き返すぐらいの気持ちで言っていたらいたほうが、僕はすごく勉強になります。教えていただいて、これぐ

らいの子どもたちがいて、こういうことをやっていて、日常はこうですということを伝えて、NPO側に余り遠慮せずにそのまま突っ込んでいただいたほうがいいのではないかと僕は個人的には思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

児童会館は、今、児童クラブが多いので、職員が1年生、2年生にすごく手をとられている状況が見受けられます。その中で専門的にいろいろな活動をしている方の力はすごく大事で、やはり、子どもたちに何が不足しているのかということ、さまざまな体験です。それをバックアップするということで、現場はNPOの方たちにもわがままを言うかもしれないですけども、逆に現場にとっても学びだと思うので、もしマッチングしたけれども、どこも手を挙げない団体がいた場合に、決してそのまま返さないとと思うのですが、何で手を挙げなかったかということも聞き取ってフィードバックしてあげてもらいたいと思うのです。誰も手を挙げてくれなくて、せっかく登録したのに、うちは子どもは無理と思われられないようなサポートをお願いしたいと思います。

○事務局（古野係長） 表向きは手が挙がらなかったら御了承くださいとはしているのですが、できるだけつなぐ役割を果たしたいと思っていて、それこそ、なぜ手が挙がらなかったのか、タイトルに魅力がなかったのか、中身に魅力がなかったのかということも団体と一緒に考えながら次につなげていきたいと思っております。

○寺田座長 あとはよろしいですか。

では、事務ブースの有効活用についてお願いします。

○事務局（古野係長） 最後の議事で、事務ブースの10月から入居する団体の募集については別件でお話しするのですが、今まで、この運営協議会の場で、あいている事務ブースの有効活用について、かなりいろいろな意見をいただいております。まずは、団体に拠点として、事務ブースを使用していただくことが最優先で、事務ブースを埋める努力をしますとお伝えしてきました。そこで、事務ブースの存在を知っていただくためのリーフレットを作成したり、入居団体募集時期ではないときに宣伝できるようなアイテムをつくって努力をしてきました。

続いて、通常4月と10月の年2回の募集だったところ、イレギュラーに今回6月から入居する団体を募集したところ、3団体の応募があり、6月1日から入居しております。現在は4区画分があいているのですが、これから募集をいたします。ただし、ここで全区画埋まらなかったときの有効活用案として次のように考えております。お手元には資料はないので、パワーポイントをごらんください。

サポートセンターの企画部を立ち上げてみたいと考えております。前回、皆さんの御意見などを参考に、事業として学生団体の立ち上げとか、奥山さんがよくおっしゃっている寄附者にも役割を担ってもらったらいのではないかと、そんなスタンスを盛り込んで、サポートセンターのサポーターを募りたいと考えました。

背景としては、「はじめて講座」とか「マネジメント講座」に参加される方、既に活動

を始めているという方よりも、何かを始めたいという思いで参加される方がとても多いのです。現在、そういった方への対応というのは、既存の団体を紹介して、どうぞ自分で探してコンタクトをとってくださいというご案内しかできていなかったのですが、一人一人何かやりたいという思いがあって来ているのですが、自分で団体を探して自分からコンタクトをとるのは少々ハードルが高い、そんな声も感じておりました。

そこで、そういった次の一步を踏み出したいと考えている方が気楽に参加できる活動の場としての役割をサポートセンター企画部が担うことができるのではないかと考えております。今、イメージとして持っているのは「はじめて講座」に参加した方へのご案内です。

まずは、「はじめて講座」参加者なので、NPOの話については同じレベルでスタートラインがまずそろっていると思います。そして、まずは、9月9日にあるエルプラまつりや12月に予定しているまちなかNPOでサポートセンターの事業のボランティアとしてかわりながら、さまざまな団体を知り、さまざまな団体とのつながりをつくりながら視野を広げてもらっていったらいいと考えております。

最終的には、企画部としての事業、企画、実施できる力をつけ、団体として自立していけるような支援ができたらしらおもしろいと思ひ企画しました。この案について、皆さんからご意見をいただけたらと思ひております。お願いいたします。

○寺田座長 これが事務ブースを使ってということですか。

○事務局（古野係長） 事務ブースを拠点に団体さんが活動を広げていけたらいいかなと考えております。

○寺田座長 以前、事務ブースの使われ方に、学生さんに例えば格安でとか無料でという案が出ていたと思うのです。その変形バージョンということですね。学生に限らないということで、何かをやりたい人たちで企画部をつくるということでもいいですか。

いかがでしょうか。これはちょっと無理ではないとか、もうちょっとこうしたほうがいいのではないというのがあればお願いしたいと思ひます。これは、団体が一つだけですね。

○事務局（古野係長） 今のところ一つです。

○寺田座長 佐藤課長、お願いします。

○佐藤委員 この前提条件を確認させていただきたいのですが、一応、事務ブースは有料で貸し出しをしていますということでお話がありました。前回、ここの活用方法のお話をしている中で、例えば学生さんが借りるにしても、事業として使うのであれば、あくまでもお金がかかるものなので、その経費についての整理はしなければいけないという話がありました。ここの事務ブース代については、サポートセンターの事業費の中から負担するというので、あくまでもサポートセンター企画部の一つの事業ということによろしいのですね。

○事務局（古野係長） はい。主催事業として事業費から事務ブース代は捻出していくというスタンスで考えております。

○佐藤委員 ありがとうございます。

○隼田委員 その企画部というのは、なかなかおもしろいアイデアではないかと思ってお聞きしていたのですが、イメージがまだ明確につかめない状況でして、その企画部が事務ブースをどうやって使うのか、どういうメンバーがどういうふうに関わりとして活動できるようになるのかというところをもう少し詳しく説明していただけますか。

○事務局（古野係長） ボランティア活動というのであれば事務ブースは必要ないと思うのです。ただ、今後、自立した団体になっていくために、企画部自体が企画をイベントとして運営してという活動が広がっていけばいいなと思っております。

ひいては、自立して事務ブースを自分たちのお金で借りていけるような団体に育っていかれたらいいなと思っていますので、サポートセンターのボランティアというスタンス、使い方だけではなく、ここを拠点に広報活動をしていくために事務作業をすとか、ほかの団体さんをつなげるためにミーティングをすとか、そういった拠点として使ってもらえればいいなと考えております。

○隼田委員 そこはわかるのですが、もともとのメンバーが、NPOはじめて講座などに参加していた人たちとおっしゃっていたと思うのです。それでしみサポのイベントごとの企画をその人たちに任せるとかということ、企画力とか実行力を鍛えるということまではいいと思うのです。

ただ、そういうふうに関わった人たちは、元々、一人一人がばらばらで、やりたいこともばらばらという人たちが集まっているので、その人たちを集めて何かやってみませんかとか仮にけしかけたとして、そのまま一つの団体として巣立っていけるのかということが気になります。

○事務局（古野係長） そこはあると思います。この企画部を通して、ほかの団体さんともつながることができて、私はそっちの団体の力になりたいと卒業していくのはありだと思っています。

はじめて講座は年に4回程度実施しているので、常に新しいはじめて講座卒業生を受け入れ、常に何かやりたいという思いを持った人の受け皿となり得る企画部があって、それをずっと守っていく人もいれば、そこから卒業して、自分のやりたい活動に巣立っていく、あるいは自分が団体を立ち上げていく、そんな力をつけていかれたらいいなと考えています。

○瀧谷委員 企画部にどこまで自主権というか与え、例えば、部長、私たちの中で決めましょうとか、その中でみんなで予算を出しながら、こんなことをやりたいということは比較的に見守っていくほうでかかわるのか、ある程度こちらが主導権を持って引っ張っていくのか、やってみなければわからないことはあるでしょうけれども、今のところ、どちらの要素が強いのでしょうか。

○事務局（古野係長） 最初はサポートセンターの「エルプラまつり」や「マチ×なかNPO」のボランティアなど、サポートセンターが主導になることが多いと思いますが「企画部」と名前をつけたからには、その中で部長さんがいてとか役割分担をきちんと持

って、それぞれの役割を担っていくことで団体としてというふうに考えています。

最終的には、サポートセンターは見守り側に立てたらいいなと思っておりませんが、初めのころは、まだまだ引っ張っていく形になっていくというイメージでおります。

○寺田座長 ほかにいかがでしょうか。

○宮本委員 お話を聞いて、今、私自身もそれに近い活動をしているなど当てはめて考えていたのです。私も今、北区の麻生で、そこに住んでいる人たちと一緒に、まさにターゲットは一緒に、何かしたいという時間がある方で麻生のまちづくりの活動をしましょうと。本当に部活のような感じですが、「あさぶでむすぶ」という団体のボランティア部というチームをつくって、そこに登録をしてもらってやっているのです。

ただ、今の話にもありましたように、コーディネートする側はとても重要です。事務局ではなく、本当にコーディネーターが必要で、まだまだ手放せないというか、まだ1年ちょっとですけれども、何かをしたい人というのはすごく漠然としているので、ある程度こちらから、こんな活動があるよという情報の提供をするための情報を探してくるという作業ですね。うちのボランティア部というのは、麻生でのNPOとか商店街とか町内会とか、そういった地域の団体に登録をしてもらって、その登録団体から活動情報を聞いて、それをボランティア部に登録している個人にお伝えします。参加している個々人は、月1回のミーティングに参加できて、そこで、提供があった内容でやりたいものがあれば参加をするという形をとって、ものすごくセットをして来てもらっているという状態でやっています。ようやく皆の顔が見えてきて、その活動以外でもお友達になったりという広がりが出てきているぐらいで、企画内容は職員側のコーディネートがとても必要になってくるだろうなど聞いていて感じました。編集ボランティアに近いようなイメージかと思います。

もう一つ気になったのは、今、私が説明したボランティア部は、お金を払って参加をしてもらっています。微々たるものですが、保険料300円と、ミーティングに参加をするということで月100円払ってもらって、払った分、自分も積極的に参加する、情報をもって活動するという気持ちでつながっているというのも実はありますので、その主体性をきちんと仕組みにしてあげるといっても少しあるといいと思って聞いていました。

多分、この辺は草野さんが知っているのではないかと思います。

○草野委員 大変申しわけないのですが、あまり価値がわかりません。サポセンが本当にこれをやるべきかというところが僕はまだフィットしていません。多分、団体としては自立できないと、この時点ではっきり言ったほうがいいと思います。机上の空論で、そんな簡単な話ではないですし、例えば立ち上げるメンバーの3人がここにスタートアップとして入って、団体としてつくっていくという可能性はあるかもしれないけれども、そこで集まった人たちが自立できるということはほぼないだろうと思っています。

むしろ、すっきりさせるのであれば、本当に市民活動サポートセンターのボランティアチームという言い方をしてしまったほうがすっきりすると思いますが、それ自体がここに本当に必要な機能なのか、それは何の意味があるのかということころは、まだいいストーリー

一はつくれていないです。

ただ、違う切り口になりますけれども、サポートセンターの出入りする人たちや、場所の立地環境などを考えたときに、団体に所属していない人と活動していない人をキャッチする機能はないはずだと思っています。つまり、フリーな人です。フリーな人が一時的な滞留する機能はないはずだと思っているのです。団体に所属しているので初めてここに来られるとか、立ち上げようと思っているので、ここに来るとなるのですが、その予備軍の人たちがここに来て、あのブースのところに入っていったり、ミーティングする場所に行き、一人でパソコンを立ち上げる人はいるかもしれません。恐らくあそこに居場所はない状態で、所属がない状態の人がいらっしやると思うのです。その人たちを一時的にキャッチして、ほかの団体とつなげてあげるという機能がここに入ってくるのだったら意味はあると思ったのですが、あいている空間をどう使うのか、それで何を成果とするのかというところは、もう少しきれいにしたいというのが率直な感想です。

○中田委員 私もきょう初めて聞いたときは、活動というのは、ある程度の目的があって、それに賛同できる人が集まってとか、私もいろいろな委員会のOBで集まったり、何個か今でもやっています。そうではなくて、あくまでも「エルプラまつり」とか、「マチ×なか」のサポセンのお手伝いをきっかけにというのはなるほどなと思うのですが、そういう人は、年齢、性別、思想などがばらばらだ思うのです。それをお手伝いだけでどれぐらいつなぎとめられるのか。大変難しい支援になるように思います。

これを考えた趣旨も理解はできます。コミュニケーション能力とか、ファシリテーション能力を若い人につけていってもらって、そういう人を世の中に送り出すことができれば、それが一つのサポートセンターの機能、役割になるという考えだと思います。このような活動が、社会貢献になるというのが根底にあるのはわかるのですが、先ほど言ったように、継続性とか、目的とか、いろいろ総合的に勘案すると、果たして受講される方が集まるのかということも気になるところですし、こちらから、無視して押しつけても続かないです。でも、試しにやってみたいという気もします。そういう意味では、無責任ですが、応援はします。いろいろな情報は持っていますので、そういう面では協力できます。

○奥山委員 もしかすると、企画の趣旨がちょっとずれるかもしれないですけども、ある勉強会の同窓会組織に半分ぐらい所属しているような状態で、それぞれ自分の団体があって、その団体をよりよくするための勉強会、全国各地でやったものを全国大会にみんな集まって2年ぐらいやりました。その同窓会組織があります。それは、同窓会組織で何らかの企画を一本立ち上げようということではなくて、あくまでも、次に我々はどんなことを学びたいのか、横のつながりがあって情報交換ができるよさみたいなものを感じられる同窓会組織だったりするのです。

ですから、今、企画部で何か団体を立ち上げるということなのか、卒業した人が立ち上げるということなのか、まだはっきり理解はできていないのですけれども、例えば、今皆さんがおっしゃっていた、自分の団体を持っている人が参加する、場合によっては、やり

たいなと思っているけれども、まだ団体を持っていない人が講座に参加して、そういう人たちが集まって横のつながりをつくるというものと、自分たちの学びたいことは何だろうというので、例えば自主講座を全部皆さんで企画されるわけではなくて、年に1回、2回ぐらい企画部がこんなことを学びたいというのは、意外とここのメンバーでは、もしくは皆さんでは盲点だったことを学びたいと思っているというニーズを吸い上げられるかもしれないという意味ではおもしろいと思います。

これでみんないいことをしてくださいというよりは、お互いの学びの場、学びの一貫としてボランティア活動に参加してみるという格好も少し考えられると思いながらお話を伺っておりました。

○寺田座長 ありがとうございます。

だんだん時間がなくなってきた、今のお話の中でヒントをたくさんいただきましたので、再考したほうがいいのかもかもしれませんね。

○事務局（古野係長） 私の中でもイメージが固まってきましたので、また再考してチャレンジしてみたいと思います。

○寺田座長 最後の議事ですが、入居分の事務ブースの使用団体選考について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（古野係長） 10月からの入居団体分を募集開始いたします。7月1日から8月10日までの募集となっております。それに伴いまして選考委員会を8月下旬、20日の週ぐらいと考えております。前回同様、札幌市市民活動サポートセンター事務ブース貸出要領第6条及び第7条に基づいて、選考については選考委員会を設置し、書類選考と公開面接を実施いたします。選考委員につきましては、運営委員の皆様の中から2名の推薦をお願いしたいと考えております。

○寺田座長 事務ブースに関する質問及び選考委員の立候補、推薦について、これは自薦、他薦は問いませんので、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○寺田座長 特に出なければ、委員の選出については事務局から何か提案はございますか。

○事務局（山田市民活動担当課長） 事務局から、今回は隼田委員と瀧谷委員を推薦させていただきます。

○寺田座長 お二人は、いかがでしょうか。

○隼田委員 はい。

○瀧谷委員 はい。

○寺田座長 はい、ありがとうございます。

それでは、両委員、どうぞよろしくお願ひいたします。

3. その他、意見交換

○寺田座長 最後に、時間が押してはいるのですが、一番情報交換したかったところで、

サポートセンターの目指すところについて、事務局から少しお話しさせていただきたいと思います。

○事務局（古野係長） 現在、サポートセンターは、これから5年後、10年後を見据えたときに、こんなサポートセンターでありたいという話を職員の間でしております。

充実したハード面を生かしながら、ソフト面の強化を我々の中では考えております。現在のハード面から更新しないということではなく、まずは拠点として立地条件がいいサポートセンター、場所、スペースがあるサポートセンターをいかに活用していけばいいのか。

そのため、こんなサポートセンターだったらいいよねということや、地域が活性化するのはどんなことだろうというテーマで話をしてきました。私たちはいろいろな機能を持ってサポートセンターを運営していますが、改めて私たちは自分たちがやっていることを振り返ってみました。それを踏まえて、こんな職員でありたい、こんなサポートセンターでありたいというふうに考えております。例えば、今ある相談機能も、気軽に相談できるスタッフがいる場所、スタッフと利用者が対等な関係であって、相談されたことについて共感して終わりにしたくない、解決につながる情報提供がしたい。では、サポートセンターにはどんな情報が集まっていればいいのか、情報を集めるためにはどうしたらいいのか、効果的に情報を発信するためとか、団体が情報発信できる場所、機会の提供とか、そんなことを少しずつ考えながら、これから5年後、10年後のサポートセンターのあり方を考えているところです。

我々、サポートセンターが先端のことを生み出して我々についてきてくださいという立ち位置ではなく、我々は、あくまでも市民活動団体が主役になれるように、団体が輝けるためにはどういった支援があるのかというスタンスで考えております。

きょうは、皆様から、さまざまな視点から、こんなサポートセンターだったらいいよねとか、地域が活性化する社会を目指すためにはこんな機能が必要だよねというアイデアをいただきたいと思っていましたが、時間も限られておりますので、個別にでもそういうことをお伝えいただける機会をつくりたいと思っております。

○寺田座長 5年後というのは、今、次の指定管理の提案の準備をしておりますが、次期指定管理からは5年というスパンになるという話があります。5年で1スパンだけを考えても、その先の5年はすぐ来ます。そして、今の社会状況では、人口は減ることがあっても、爆発的にふえることはないだろうということです。既に高齢者の人たちがふえているということでは、25年から比べたら、1団体当たりの平均人数が減っていることは数字としても出ておりますので、そういったところを見据えながら、どうしたらいいのだろうというところで職員も頭を痛めているところです。

ぜひ、個別でも構いませんので、メールでも構いませんし、何かの機会にお電話をいただいても構いませんので、ご意見をお聞かせいただければありがたいと思います。

時間がぎりぎりの進行になってしまって申しわけありません。最後に、これだけは言っておきたいということがありましたらお願いします。

○隼田委員 ウェブのことで、次の指定管理に向けてということでしたので、一つお願いです。

個別には古野さんと随分お話をさせていただいていますが、ウェブは、技術も常に進化していますし、定期的なリニューアルが、非常に重要です。昨年度まであったサイトでもいろいろ課題がありましたが、お金がないということで、なかなかリニューアルができなかったと思うのです。指定管理更新のプロポーザルを出すに当たって、日々、ウェブの管理をしていくための予算をしっかりとつけるべきだと思いますし、札幌市さん側もそこは見えていただければと思います。

もう一つ、先ほどの提案とか、今の目指すところとも関係して、先ほどの議論とも関係してくるのですが、市民活動サポートセンターというのは、市民活動のインキュベーション機能は物すごく重要だと思うのですけれども、それが単発の講座とか、空間を自由に使えますという形になっていて、ちょっとぼらぼら感があるような気がしています。ですから、それをハイブリッドにしたような、本当に育てるような機能を強化することが必要ではないかと感じました。

これは、前に草野さんが学生のコンテストとかやって、優秀だった者に場所を貸したらどうだとおっしゃったのと同じで、学生にこだわらなくてもいいと思うのですけれども、そういう形でやることができると、先ほどの企画部の案自体はいいと思うのです。ただ、企画部とブースの使い方というところにまだ乖離があるので、ソフトの部分で企画部があって、企画部でプロジェクト・ベースド・ラーニング的にここの事業を手伝って、事業の難しさ、イベントの運営の難しさを体験した上で、何か企画を出してくださいということで参加者一人一人に企画を出してもらって、そこで勝った人にはご褒美でブースが使えるとかができると、インキュベーションの機能がもっと強化されると思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

ほかはよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○寺田座長 いつでもご意見がありましたら、センターのほうにお届けいただければと思います。

○事務局(田村指導員) 委員の皆様、ありがとうございました。

今回の会議概要は、作成後、各委員へお送りいたします。内容をご確認いただき、返信ください。集約後、市民活動サポートセンターホームページに掲載いたします。どうぞよろしく願いいたします。

4. 閉 会

○事務局(田村指導員) 以上で、札幌市市民活動サポートセンター平成29年度第1回運営協議会を終了いたします。

以 上